令和元年度 学校評価の結果と分析及び課題

I 調査の概要

	生徒	生徒(授業評価)	保護者	教職員
回答者数	669	669	656	60
回答率	99.6%	99.6%	97.6%	100%
調査日	R1.12.3	R1.12.3	R1.11.13~20	R1.11.18~21

II 本年度の重点目標

1. 確かな学力と主体的に考え行動できる力の育成
 - (1) 基礎学力の定着と学習意欲の向上への取組
 - (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

【アンケート結果の分析及び課題】

「授業を大切にしている」と答えた生徒が多く、本校生徒の授業に対する意識の高さを感じる。また「専門性習得」「検定や資格取得」に対し高い意欲を持つ生徒の割合が安定している。しかし、「家庭学習が習慣化している」と感じている生徒が少ない。1年生のうちから、学習が学校のみならず、効果的な家庭学習・自主学習の方法と習慣を身に付けられるような取り組みが必要である。また、思考力・判断力を養うために読書習慣の確立も大切だと考える。1年生の4月に行う図書館オリエンテーション以降、まったく図書館を利用しないという生徒もいるようである。朝読に頼るのではなく、折に触れ、読書を促す働きかけを行っていきたい。

2. ルール・マナーを守る態度と自己指導能力の育成
 - (1) あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、時間厳守の指導の徹底
 - (2) 交通ルールの遵守と交通安全指導の徹底
 - (3) 個性の伸長と社会的自立を目指した社会性の育成

【アンケート結果の分析及び課題】

あいさつや頭髪服装について、多くの生徒ができているが、校外ではできていない生徒がみられるようである。今後の指導方法の改善が必要である。毎朝の駐輪場や交差点での立哨指導をしていることもあり、交通マナーに対する生徒の意識は高い結果がでている。しかし「イヤホンくらいよいではないか」といった安易な考えをする一部の生徒がみられる。交通事故につながらないように、指導を継続及び強化をしていきたい。いじめや不登校については引き続き、生徒の些細な変化を見逃さず、生徒の悩みを聞く相談体制づくりに努めたい。また、教職員全員の意識と保護者や外部組織との連携を密にすることが今後さらに必要となる。

3. 自己の在り方生き方を考えるキャリア教育の実践
 - (1) 年間を通した体系的なキャリア教育の実践
 - (2) 専門性の深化と進路意識・目的意識の向上
 - (3) 検定や資格取得による自己肯定感の向上

【アンケート結果の分析及び課題】

本年度も就職は、早い段階で内定をいただくことができた。また、進学においても早い段階で希望する学校・学部学科が決定し、受験に向かうことができた。「進路活動に積極的に参加している」と多くの生徒が答えており、進路に対する意識が高いためと推測できる。しかし、就職か進学か、希望する企業・職種、進学先等を決めきれない生徒も若干名いた。会社見学などの見直しも含めた検討が必要である。公募制推薦やAO入試での進学を志望する生徒には模擬試験の積極的な受験を勧め実力のさらなる向上に努めたい。生徒の実情に合った進路行事の精選・見直しや、学科の取り組みも含め、3年間を見通したキャリア教育をさらに充実させていきたい。

4. 保護者や地域の信頼に応える学校づくりと特別活動の活性化
 - (1) 地域連携事業等による保護者や地域の信頼に応える学校づくり
 - (2) 逞しい心と体、豊かな人間性の涵養

【アンケート結果の分析及び課題】

地域連携による体験活動や交流学習の活性化について、生徒と保護者・教職員との間にかかなりの意識格差があるアンケート結果となった。保護者や地域の信頼に応える学校づくりには、この格差の是正に取り組む必要がある。毎年行われている佐野松桜高校フェスタは地域と連携した有意義な行事であり、4学科の魅力を地域に十分に発信できるよう、実施方法・時期・形式をさらに協議し充実させたい。部活動への加入率が減少傾向にあり、学習と部活動との両立が難しいことも理由に含まれると推測される。学習との両立もふまえ、限られた時間でも充実した活動ができるよう工夫し、指導していく必要があると考える。